



出ると、流れ落ちていく様子をじっと集中して見えています。「チョロチョロ…」と水が流れる音がしはじめるとフツと表情をゆるませました。一度他のところへ視線が向いても音が聞こえたのをきっかけに画面へ視線を戻して再びじっと見ていました。画面の動きとそれに連動して聞こえてくる音を聞いて楽しんでいました。

Bさん(横地分類A6)は、「ここのうた」や「ぞうさん」などのゆったりした曲を歌いかけると、立ち止まったり近くに來たりしてじっと職員顔を見ながら聞いていることがあります。歌いかけながら本人の手を取って優しくゆっくりと縦や横に揺らすと、身を委ねてそれを感じている様子がありました。

うららの
日常活動紹介
田邊 愛

Aさん(横地分類B2)は、リビングで一緒に過ごしている就学前の子どもを微笑ましく思うようなやさしい表情で見ていることがよくあります。ごっこ遊びの感じで、「おかあさんみないだね」と声をかけると、とても嬉しそうに表情をします。食べ物のお話にも興味を示すことが多く、実際に自分のおやつが入っている冷蔵庫に向かっていく様子も見られます。日常活動で

は、タッチ操作で目玉焼きやおすしなどの料理ができるアプリを使っています。職員がタブレットにタッチする度に変化の様子を真剣な表情で見ている、自分でも画面にタッチをします。目玉焼きを作るアプリでは、1回目のタッチで卵を割って、フライパンに卵を落とします。卵がフライパンに落ちると画面に注目して、卵が焼けていく様子をよく見えています。そして、真剣な表情で画面に注目したまま卵が焼けるのを少し待ち、Aさんの好きなタイミングで2回目のタッチをします。2回目のタッチをすることで目玉焼きが完成します。タッチのタイミングが合わない料理が失敗してしまうのですが、悔しがるといふよりは、失敗したときにタブレットから聞こえる「焦げちゃったね」「かしい」という言葉で、つい笑ってしまふようです。画面をタッチするタイミングによる結果の違いから、失敗したときのキャラクターの声やアクションに面白さも感じているようでした。Aさんは、画面の狙った部分を押しそのまま滑らすような細かい操作はできません。そのため、野



菜を切る、混ぜるなどの操作のときには、何度も画面に手を伸ばして、自分で体の向きを変え、タッチをする場所を変えようとします。また、指先だけではなく、手の平や手の甲を使うなど自分で操作する工夫をします。

菜を切る、混ぜるなどの操作のときには、何度も画面に手を伸ばして、自分で体の向きを変え、タッチをする場所を変えようとします。また、指先だけではなく、手の平や手の甲を使うなど自分で操作する工夫をします。

菜を切る、混ぜるなどの操作のときには、何度も画面に手を伸ばして、自分で体の向きを変え、タッチをする場所を変えようとします。また、指先だけではなく、手の平や手の甲を使うなど自分で操作する工夫をします。

